

長文の意味理解が苦手な児童の指導(2)

アセスメントの実施

WISC-III及び「文字の読み書きチェックリスト」

- ◆体を使ったり、教材を操作したり、動画を見たりする課題のほうが好きである。
- ◆一般常識的なことはよく知っている。(理解)
- ◆言語の上位概念の形成が困難。(類似)
- ◆単語をまとまりとして読むことが難しい。

単語や文を滑らかに読むことが難しい傾向があります。

★得意なことを生かして文章を読み、内容を理解しよう！
教材の工夫を通して主体的、意欲的に取り組めるようにしましょう。

教科書の挿絵を活用したワークシートの工夫

「きつねのおきゃくさま」



登場人物を順番に並べました。



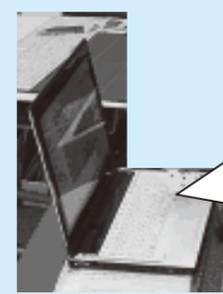
イメージ図の上で、登場人物の絵カードを動かして話の流れをつかみました。

板書やICT機器の活用の工夫

「さけがおおきくなるまで」



時間を軸にした表を作成して、時間の経過とともに鮭がどこに移動したかを整理しました。



インターネットで鮭について調べました。動画の情報があるなど、説明文の内容理解に役立ちました。

挿絵の様子を短文で書くことで、文章全体の内容を捉えられるようにしました。



鮭の稚魚の長さを測りながら粘土で作ってみました。実際の大きさがよく分かりました。



◆視覚化された情報を見つけることで、対象児童が意欲的に取り組むことができました。

指導の成果

★本児の心に残ったところを手掛かりに読み取りをしたので、興味・関心をもって取り組むことができました。

